

1 総括(一年を振り返って)

2021年度は、役員の変更期であり、理事及び監事全員が再任され、理事長、業務執行理事も再任が決定した。評議員は11名のうち8名が再任、3名が新任となった。

法人を取り巻く状況は、前年度からの新型コロナウイルスの感染は強弱を繰り返しながらも収まることはなく、一部の施設ではクラスター化により事業運営に多大な影響が生じる結果となった。また、泉苑における介護事故を発端としたその後の状況は、法人全体にも影響する想定外の対応が求められることとなり、円滑な利用者サービスを維持するには、大変厳しい職場環境が続いた。こうした状況は収支に直結し、繰越金の取崩しを余儀なくされ、一段と困難な財務状況となった。

コロナウイルス対応としては、引き続き対策本部を中心に全施設長で市中の感染動向を踏まえた感染予防対策を協議・周知するとともに、職員に対してはPCR検査を徹底して実施した。

事業運営に課題が多い一年であったが、業務運営面では、ICT機器の導入推進に備えたICT活用促進研修の実施やオンライン開催での職員採用説明会の準備等の取組を進めた。

内部管理面では、内部管理の基本となる組織規程を整備するとともに、執行体制の強化を目的として、会議体系の見直しを行うための定款施行細則の改正を行った。また、内部監査委員会においては内部監査の様式や進め方を見直しを行ったほか、次年度の内部監査実施計画の策定に取り組んだ。

終わりのないウイルスへの対応や介護事故からの混乱の中で、役職員にとっては厳しい一年となった。